

# 豊田市 発・紙リサイクル共創モデル実験

「啓発」を通じた広域連携を目指して

～地域循環共生社会づくり～

ミライのフターをつくらう



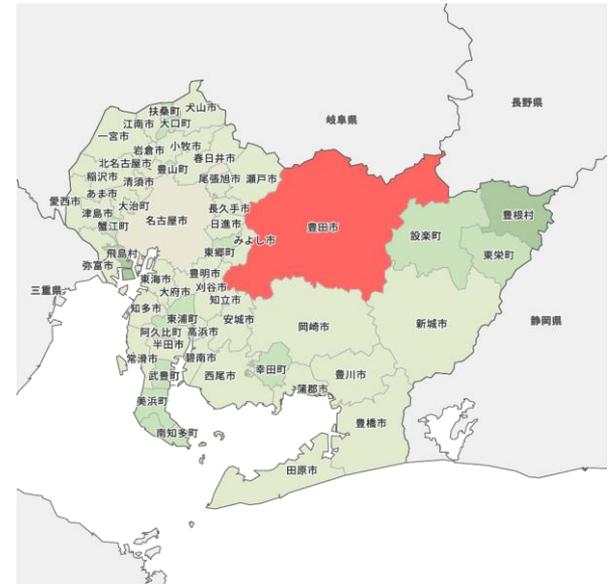
要・ロゴ使用許可申請



全国製紙原料商工組合連合会



公益財団法人古紙再生促進センター



2025年 月 日

# 目次

---

- ① 当センターの啓発活動にあたって
- ② 啓発活動のストーリーイメージ
- ③ 豊田市の強みを生かした地域循環共生モデル
- ④ 豊田市 環境基本計画 等との親和性
- ⑤ 啓発活動の多様な協働体制イメージ
- ⑥ 啓発活動イメージ「雑がみさまを探せ！」を軸に
- ⑦ 期待される成果イメージ
- ⑧ 本提案への思い

## (参考)

- ・ 紙リサイクルの重要性
- ・ 紙リサイクルとSDGs
- ・ Towards 2030 & Beyond ・ 古紙センターPDCA
- ・ 今後の啓発活動、検討について「事例イメージ案」

## 1. 当センターの啓発活動にあたって

全国の製紙会社、古紙問屋、商社等により形成される「**公益財団法人 古紙再生促進センター**」は創立来、半世紀に亘り、紙リサイクルに関わる多くの方々に支えられ、資源の有効利用や廃棄物の減量化、SDGs推進といった循環型社会の形成の一翼を担ってまいりました。

現在、**当センター**は各地で地域循環共生社会づくりモデルを目指し、**雑がみを含む紙資源の掘り起こしによる可燃ごみ削減**と、**市民参加型**の資源循環の可視化を通じた**行動変容の仕組みづくり**に取り組んでいます。

**豊田市におかれては、従来より紙ごみや雑がみの削減**に真摯に取り組まれ、リサイクルステーションの整備やeco-Tによる環境学習、市民協働による分別支援など、**先進的な試みが着実に積み重ねられている**ことを理解しており、敬意を表する次第です。

当センターは**公益財団法人としての中立性**と民間的な柔軟さを生かし、**既存の取り組みを補完**しながら、市民や学校、地域団体、事業者など多様な主体がさらに参画しやすい形で雑がみ資源化の輪を広げる**啓発のパートナー**としてお役に立ちたいと考えております。

**行政が基盤を整え、地域が主体的に動く**という**豊田市**のスタイルは、**地域循環共生社会の先進モデル**として誇るべきものであり、当センターは啓発活動のお手伝いを通じて、更にその歩みが進むことに繋がれば幸いです。

## 2. 啓発活動のストーリーイメージ

**資源循環を共創の中核**主体として、雑がみ回収・利用を地域コミュニティに根付かせる。

**多様な生活者・事業者・行政を結び**、その成果と意義を可視化・共有することで、持続可能な地域共生圏の形成を目指す。

3つの軸を有機的に構造化する。

### (1) 「見える化」×「つながる化」

自治体や企業、団体との共創事例を公開し、「つながり」の存在を社会に共有。

### (2) 参加共感型コミュニケーション

情報の一方通行脱却「わかる・できる・続ける」体験を設計。

### (3) 地域コミュニティ内経済・価値の共創

地域の循環共生圏、地域経済や自治体の課題解決と一体化するメッセージを意識。



## 2. 啓発活動のストーリーイメージ

「対話の入り口を」「社会参加の回路を」「無関心層への感性を」「行動の選択肢を」

- ① 子どもに：「気づく」ことが遊びになる仕掛けを
- ② 学生に：「地域の未来」に自らを接続する入り口を
- ③ 地域に：「紙ごみ」が「対話の起点」に変わる構造を
- ④ 企業に：「紙」という資源を「物語」と共に届ける機会を
- ⑤ 自治体に：「ごみ政策」を「地域文化政策」へと深化させる対話を
- ⑥ シニア世代に：「伝承者」「支える側」としての位置づけを
- ⑦ 外国人居住者に：「文化と言語の壁」を越える暮らし直結型の支援を

「啓発」は社会と未来への関与。紙リサイクルは単なる環境保護や分別行動ではない。

人・地域・企業・行政が、持続可能な未来に向けて協調的に関与する社会行動。  
「地域共創の繋ぎ手」として社会に根づかせる存在でありたい。

## 2. 啓発活動のストーリーイメージ 雑がみさまを探せ！ (雑がみ回収促進社会実験)

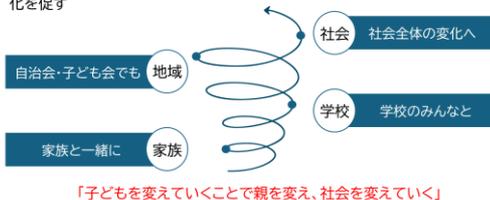
### 目的

雑がみの認知度向上並びに分別・回収の習慣づけを目的とした啓発活動  
⇒ 幼少期(学童期)からの分別習慣の効果は大きく、未来にわたって環境配慮行動を行う人材育成につながる



### 目的

子どもを発信源として家族と一緒に取り組むことで、同居する親世代の意識変化を促す



### 効果(自治体・業界)

可燃ごみに捨てられる雑がみ回収促進を進めることで、可燃ごみの削減や新たな製紙原料の確保につながる



「雑がみさまを探せ！」は、いかにして子供たちに家庭での雑がみ分別に誘導するかを、**大阪大学大学院経済学研究科・松村真宏教授(仕掛け)**と当センターが連携する新たな試み。

仕掛けのアプローチとは、正論(従来の正攻法)で解決しなかった社会課題を正論は使わずに参加者(小学生)が興味を持ちそうな「仕掛け」を利用することで、結果的に望ましい行動を実現し、その後も親世代を絡めて、家族で継続しやすい仕掛けを狙う。

子供達への「仕掛け」コンセプト  
紙=カミ(神) ⇒ 家庭の中には、神(紙)様・「雑がみさま」が宿っている。



一般向け

## 2. 啓発活動のストーリーイメージ 雑がみさまを探せ！ (雑がみ回収促進社会実験)

### 啓発資材一覧 (古紙再生促進センターが全て準備)



啓発チラシ



啓発袋



啓発パネル



のぼり旗



ロールアップバナー



ビブス

※今後バルーンPOPやテーブルクロス等をご用意する予定です

### 啓発資材使用イメージ

福島市で開催した環境フェア  
古紙センター東北地区委員会 (株式会社このの)



## 2. 啓発活動のストーリーイメージ 雑がみさまを探せ！ (雑がみ回収促進社会実験)

### キャラクター コラボレーションイメージ

全国各自治体との可燃ごみ削減・雑がみ啓発連携に向けた  
キャラクターコラボレーション検討



古紙再生促進センター  
雑がみ回収促進・社会実験キャラクター(2025年)

### 3. 豊田市の強みを生かした地域循環共生モデル

#### 大都市の規模と発信力

高度な産業集積基盤を有し、スポーツ、市民参加型イベントを通じた、雑がみ啓発の社会参加導線機会が豊富。

#### 学習と実践の統合姿勢

「学びを行動に変える循環都市」を掲げ、雑がみ掘り起こしを行動変容型施策として位置づける親和性がある。

#### 構造的な資源循環モデル

環境基本計画で地域循環共生圏の形成を掲げており、雑がみ分別を単なる啓発でなく構造的な資源循環モデルとして組み込む政策的余地がある。

#### 環境啓発拠点の充実

eco-Tやエコフルタウンなど環境学習施設が整備されており、雑がみ資源化をテーマにした体験展示や啓発導線が組みやすい環境にある。



産業と自然、そして人がつながる循環未来都市・豊田

豊田市は自動車産業を核とする技術集積と、市民参加型の環境行動を重視する自治体文化を併せ持つ稀有な都市である。リサイクルステーション網や企業・大学連携の仕組みが既に存在し、資源循環の実証フィールドとして成熟している点は大きな強みである。またSDGs未来都市として「地域循環共生圏」の形成を明記し、生活様式の転換を政策軸に据えているため、雑がみ掘り起こしを単なる分別啓発ではなく、市民協働の循環社会づくりとして位置づけやすい。本啓発モデルの理念と親和的である。

本モデルでは、回収された雑がみを広域エリア内で選別・加工し、連携可能な製紙工場にて再資源化する“紙資源の地産地消”を再確認することで、輸送コストや環境負荷の軽減を図ると同時に地域内経済の循環性を高める仕組みを充実化し、地方都市に於ける全国のベンチマーク化を志す。

新規設備や格段の追加投資を前提とするのではなく、すでに地元地域が有する地域資源、制度、ネットワークを最大限活用しながら、段階的かつ持続可能に展開する「啓発モデル」を可視化。

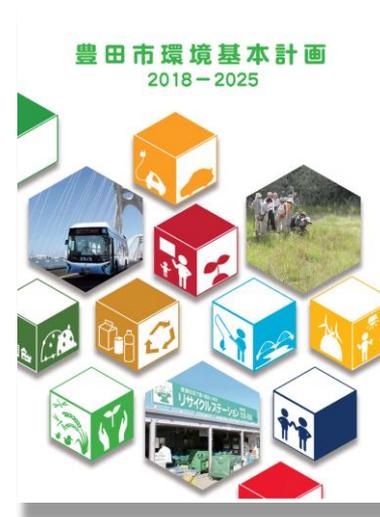
## 4. 豊田市 環境基本計画 等との親和性

### 「地域循環共生圏」連携

市計画は、資源循環を通じた地域内の価値循環を明確に掲げ、生活様式転換と市民協働を重視する姿勢を示している。この方針は、雑がみ掘り起こしを起点とした市民参加型の本啓発活動と一致し、資源を媒介に人と地域を再接続する本モデルの理念と親和性を持つ。

### 市民行動変容とゼロカーボン

市計画は、市民の暮らし方を変える「行動型ゼロカーボン」を掲げる。本モデルは家庭内ごみ分別という日常行動に焦点を当て、市民参加による炭素削減を実体験として可視化する特徴を持つ。CO<sub>2</sub>削減を、自分ごととして理解できる機会を提供し、共創型のゼロカーボン施策と親和性を期待。

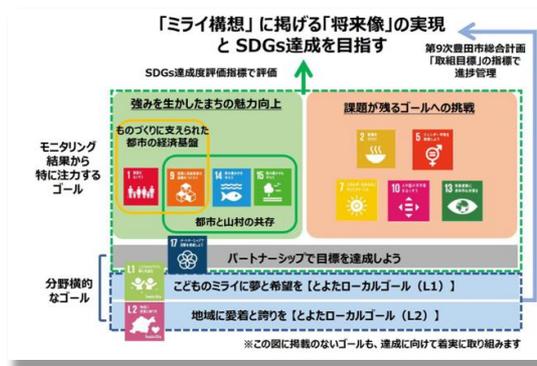


### 市民協働と共創体制

市計画は、市民、企業、学校、地域団体の協働を重視、多様な主体が資源循環に関わる仕組みづくりを掲げる。雑がみ啓発モデルは、イベントや集団回収と連携し、参加の場を増やすことで市民協働を狙う。地域の自発性を尊重しつつ、共創の機運を高める。官民連携、継続性を目指すことが可能。

### 環境学習・行動変容との整合

市計画は、環境学習と行動変容を重視し、eco Tや学校教育の場を通じた啓発を位置付けている。雑がみ啓発モデルは、学校回収や体験型WSを通じて分別意識を育てる点でこの方針と整合。子どもを起点に家庭内の行動変化を促す仕組みを通じ、持続的な学びを促す効果も狙う。



第3期SDGs未来都市計画（2025～2027）

## 5. 啓発活動の多様な協働体制イメージ

### 行政

各自治体（資源リサイクル関連、福祉、教育委員会等）：施策調整、拠点整備、学校授業導入、公益施設運営

### 教育機関

小中高、大学、EMS活動、新入生環境授業、ボランティア活動、PBL型地域参加

### 福祉・高齢者団体

就労支援B型事業所、社会福祉協議会、老人クラブ等：拠点運営補助、見守り交流

### 企業・商工会

スーパー、包装印刷、食品、信金、運輸等：店頭広報、ポイント制度連携、雑がみ袋広告、事業系雑がみ回収、SCCI連携

### 市民団体

PTA、NPO、環境ボランティア：地域拠点協力、イベント運営、住民啓発

### メディア・研究機関

地元新聞社、TV、SNS、大学研究室等：広報支援、効果測定、全国展開モデル評価

### 静脈・製紙産業

広域エリア内の製紙工場、古紙問屋、回収収集業者：雑がみ受入、回収・品質管理、搬送

### スポーツ団体 (少年・プロ・アマ)

各種のスポーツ少年団体、地域に根差すスポーツチーム：集団回収、資源回収協力、啓発活動、保護者との家庭連携

### 需給両業界団体

古紙再生促進センター中部地区委員会、中部製紙原商工組合、愛知県古紙協同組合：活動全般支援

## 6. 啓発活動イメージ「雑がみ様を探せ！」を軸に（2025～26年度）

### 雑がみ啓発と学校教育との接続

市内小中学校において紙リサイクルに関する啓発活動「雑がみさまを探せ！」を通じた出前授業やワークショップを実施。  
「子供から家庭を変える、社会を変える」児童生徒や保護者の家庭内分別を促進。

### 広域エリア内の製紙工場群との連携

札幌市を核とする道内域内には紙リサイクルの地域内処理・利用が可能な製紙工場の存在があり、それらとの連携を通じた、紙資源リサイクルの地産地消を更に推進。

### スポーツ団体との連携

スポーツ少年団の資源回収活動協力、運動と公共活動の融合を図る。集団回収活動の活性化、世代間交流の機会にも繋げる。また道内のJ、各プロ球技チームとの連携を通じ、試合時の「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーンを図る。

### 市イベント・施設に於ける啓発活動

多くの道民が参加する市民イベント、祭り、環境フェアやリサイクルプラザ、公民館などを通じた「雑がみさまを探せ！」啓発を通じ、一人ひとりの参画意識醸成を図る。

### 大学生ボランティアとの連携

市内の大学環境活動団体などを通じた、学生を募集、「雑がみさまを探せ！」運動の支援を通じた持続的な啓発活動の組織力強化、学生自身への社会課題解決体験のきっかけとする。

### 地元企業との連携による資源循環

大規模商業施設、商店街店舗を通じた、地域ポイント利用・認証制度（「さっぽろリサイクル応援店」等）による消費者との接点強化を推進。企業の紙袋への「雑がみ回収に利用」を訴求する表示協力。

## 7. 期待される成果イメージ（順不同）

- ・ 雑がみ回収量の増加、可燃ごみに占める紙ごみ比率減少
- ・ 紙ごみによるCO2排出削減効果の定量化
- ・ 域内製紙工場とのマッチングによる資源地産地消モデルの加速
- ・ 小中高校生・大学生・高齢者・地域住民のリサイクル意識向上と世代間交流の促進
- ・ 高齢者との交流機会創出による地域コミュニティの活性化、孤立防止
- ・ 障害者の地域参画による共生社会モデルの実証と福祉的就労の場の創出
- ・ 学生を通じた紙リサイクル業界における次世代の理解者の掘り起こしと職業理解の深化
- ・ 行政・住民・業界がともに成果を実感できる、参加型の循環型地域社会モデルの形成
- ・ 近隣自治体、更に全国への波及効果 等々

↓ 5%

燃えるごみ量削減

「雑がみさまを探せ！」  
を通じた分別底上げ

↓ 5%

ごみ排出量削減

1人1日当たりの  
ごみ排出量削減

↓ 10%

紙ごみ比率減少

家庭系の燃えるごみに  
占める紙ごみの比率減少

2000+

啓発参加者数

多世代の市民参加による  
コミュニティ活性化

## 8. 本提案への思い

---

これら一連の思いは、「先進的な施策を展開」してきた**豊田市**において、**すでに個別に推進されてきた**要素である。

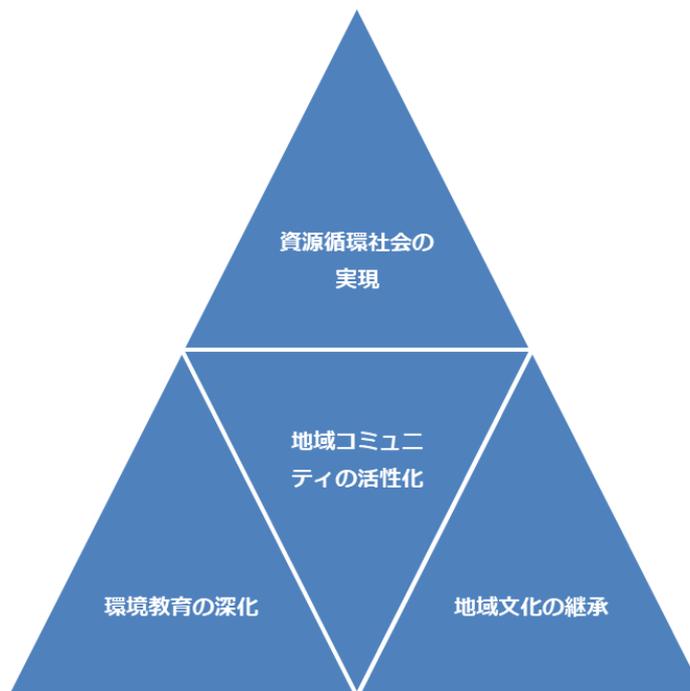
今回の**啓発活動提案**は、それらを有機的に結合し、回収・啓発・再資源化・教育・経済の各分野が一体的に連動する**“リサイクルの輪”**として、**視覚的・体感的に可視化される仕組みづくり推進**のお手伝い。

これにより、市民一人ひとりが**自分事として、地域循環への参画を一層、理解・実感**でき、長年積み重ねてきた資源循環の取り組みが、より広く認知され、成果として花開くことが望まれる。

**SDGs未来都市、ゼロカーボンシティ宣言都市である豊田市**において、紙ごみを中心とした可燃ごみ削減の実践は、持続可能なまちづくりの成果指標とも直結するものであり、**地方自治体の環境政策の模範事例**として、他自治体に発信されることを期待する。

## (参考) 紙リサイクルの重要性

---



紙リサイクル、とりわけ家庭や地域から排出される「雑がみ」は、その性質上、行政・業者・市民の協働によってのみ更なる分別と回収が可能となる分野。

また、資源循環・地域交流・環境教育・福祉・社会包摂といった複数の公共的価値を同時に実現できる特性を持ち、地域循環共生社会の実装モデルとして即効性が期待される領域。

# (参考) 紙リサイクルと SDGs

## SDGs ・ 紙のリサイクルが果たすべき役割

(2022年制定)



### 4 質の高い教育をみんなに

- 紙のリサイクルの役割  
⇒紙の再生品の利用、リサイクルを学べる教育の機会を提供する



### 11 住み続けられるまちづくりを

- 紙のリサイクルの役割  
⇒使用済の紙を分別して再利用を図り、資源の有効活用を図る



### 12 つくる責任 つかう責任

- 紙のリサイクルの役割  
⇒製紙業界のリサイクル可能な商品開発の推進に貢献する  
⇒消費者の持続可能な社会形成への参画意識を醸成する



### 13 気候変動に具体的な対策を

- 紙のリサイクルの役割  
⇒ごみの資源化による脱炭素社会の実現に貢献する



### 15 陸の豊かさも守ろう

- 紙のリサイクルの役割  
⇒森林資源の持続可能な利用に貢献する



### 17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 紙のリサイクルの役割  
⇒多様なステークホルダーが連携し、持続可能な社会を実現する

日本の紙リサイクルは国民の分別意識の高さや善意に支えられ、また長年にわたる関係者の努力の結果、資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成にも大切な役割を果たしてきた。

当センターは、消費者や事業者を始めとした紙リサイクルに関わる多様なステークホルダーの皆様とともに、広報啓発、調査研究等の事業を通じた古紙の回収や利用の促進に向けた約半世紀弱の歴史を積み重ねている。

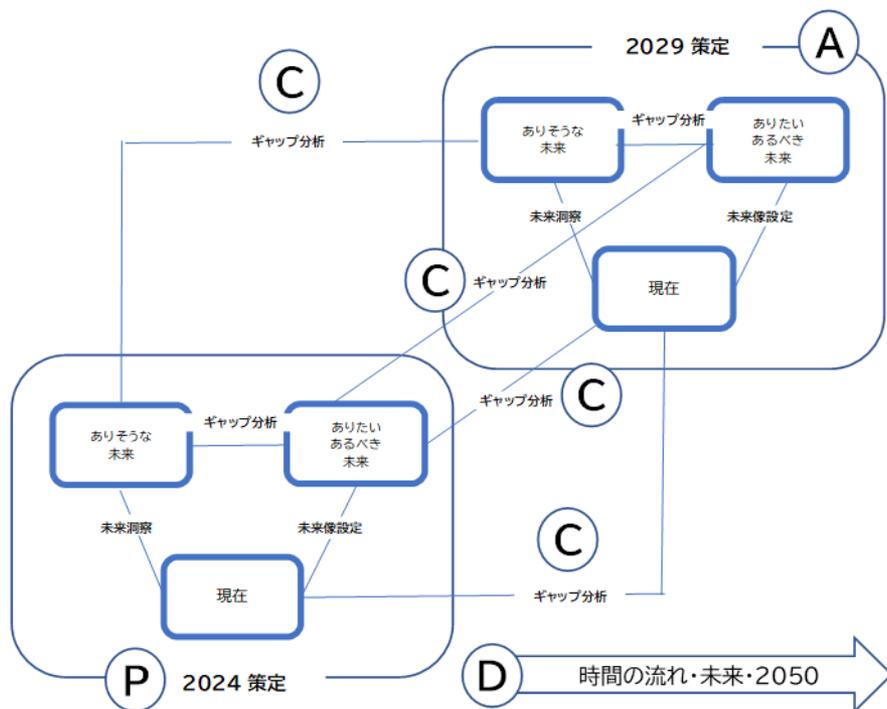
時代背景や社会が変化してきた現在も変わらず、むしろ様々な社会課題が深刻化し、国際社会がSDGs（持続可能な開発目標）の達成など持続可能な社会の実現を目指す中、原点に立ち返ったセンター活動がより一層重要になると考える。

当センターは創立半世紀の節目に向け、活動を支えていただいている皆様とともに、まずは紙リサイクルとSDGsとの関連性を再確認することを2022年にスタートした。今後も多様な立場の方々との共通言語ともいえるSDGsを通じて、小さな連携の積み重ねを大きな力に繋げ、紙リサイクルの更なる発展を目指す。



(古紙センターSDGsレポート)

## (参考) Towards 2030 & Beyond・古紙再生促進センターPDCA



当センターは創立半世紀を迎えたが、その節目に当たり多くの関係者の方々から寄せられた「20」の中長期課題（サステナブルチャレンジ2050・共創共生）をお示しした。本年度から、一連の課題対応に向けての具体的な対策や、新たな試みを開始するに当たり、ロードマップイメージである「Towards 2030 & Beyond」を策定した。

様々な社会課題解決に向けた布石は2030年までがラストチャンスであり、その影響が未来の可能性を左右すると言われる時代にある中で、環境・経済・社会側面の統合的向上や、リサイクルに関わるマルチステークホルダーとのパートナーシップを念頭に置いた事業を通じて、循環型社会形成に関する連携・協働のつなぎ手としての、更なる努力が当センターにも求められている。

今後の課題対応については需給両業界の協働に加えて、これまで以上に広く、紙リサイクルに関わるステークホルダーが、改善できる技術や意識改革を総動員した、統合的なシナジーや全体最適を議論すべき時期にある。



「サステナブルチャレンジ 2050・共創共生」



「Towards 2030 & Beyond」



「創立 50 周年記念誌」

## (参考) 今後の啓発活動・検討についての「事例イメージ案」 (順不同)

本モデルの定着化に向けた**啓発実験事業** **「雑がみさまを探せ！」**を軸に (2025年～2026年)

- ・市内大学生の啓発ボランティア確保  
豊田工業大学、中京大学 (豊田キャンパス)、愛知工業大学、豊田高専等の啓発ボランティア確保。  
「雑がみさまを探せ！」支援を通じた、継続・持続的な啓発組織力強化、学生自身の社会課題、  
解決体験のきっかけとする試み。センター検討中の大学生「紙リサイクルアンバサダー制度」との連携。
- ・各大学EMS、SDGs活動連携  
新入生への啓発授業機会、学園祭でのブース出展、継続的な啓発掲示
- ・豊田市との啓発活動・協定締結。とよたSDGsパートナー、とよたエコライフ倶楽部等との啓発連携  
豊田市と連携協定締結中の市内大学との組織的連携検討
- ・eco-T(エコット)、エコプラザ、とよたエコフルタウン、環境センター、支所・公民館等での  
「雑がみさまを探せ！」啓発、団体連携、キャラクターコラボレーション
- ・豊田市エリア内のSDGs・環境フォーラム連携、公開授業提供、WS、市内イベントでの「雑がみさまを探せ！」  
啓発活動 (とよた産業フェスタ、eco-Tエコフェスタ、とよた地球環境未来フェスタ (とよたエコフルタウン)、  
環境月間連動キャンペーン
- ・市内小学校に於ける「雑がみさまを探せ！」啓発、回収体験、「こどもエコクラブ」活動との連携 (市事務局)、
- ・「雑がみさまを探せ！」回収啓発ボックス寄贈・設置実験 (市内の小学校、支所・公民館、図書館、リサイクルプ  
ラザ、商業施設 (ドラッグ、量販、ホームセンター、スーパー等)
- ・豊田商工会議所、JC、女性会との連携、関連企業先での継続的な「ローテーション」回収運動
- ・プロ・トップリグ (Jリーグ・Bリーグ・Vリーグ・リーグワン・リーグワンウィメン、トヨタグループ系実業団  
(陸上・野球・バスケ・ソフトボール、自転車等) とのCSR活動・地域貢献活動連携、試合会場での  
「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーン .....等々